

# 地理歴史

## 1 学習指導と評価の改善・充実

### (1) 目標の確実な実現を目指す学習指導

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視している。また、地理歴史科においては、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養うことが目標とされている。

地理歴史科の指導に当たっては、生徒の学習意欲を向上させ、主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められている。

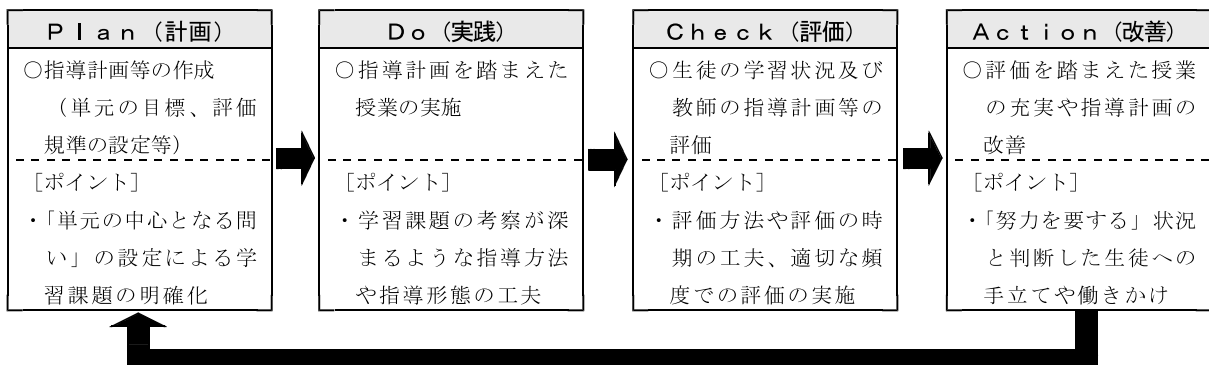
### (2) 指導と評価の一体化

基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価において各観点の評価をバランスよく実施することが必要である。また、学習指導要領に示す内容が生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに、学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要である。

各学校では、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導を行うことができるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

### (3) PDCAサイクルの確立

学習指導と学習評価の一体的な取組を通じて、学習指導要領が示す目標を確実に実現するためには、学習指導と学習評価に係るPDCAサイクルを確立することが求められる。



## 2 PDCAサイクルを重視した学習指導の例

前項を踏まえ、PDCAサイクルを重視するとともに、北海道教育委員会による「北海道高等学校学力向上推進事業」において作成された教材の活用や言語活動の充実により、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲を高める工夫を図った指導例を示す。

(1) 世界史Bの指導例

**P 「計画」** — 単元の指導と評価の計画 —

「単元を中心となる問い」を設定した単元の指導計画の作成についてはH26手引参照。

単元名	東アジア世界・内陸アジア世界（8時間）			
単元の目標	東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の紀元と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">単元を中心となる問い：東アジア世界はどのようにして形成されたのだろう。</div>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	諸文明が自然環境に適応しながら築き上げられたことや、隣接する地域世界が相互に影響し合ってきたことに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	日本を含む東アジア世界・内陸アジア世界の形成過程及び中華文明や東アジア諸民族の特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	諸文明の特質に関する資料から有用な情報を適切に選択して、関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理している。	日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程についての基本的な事柄を把握し、その知識を身に付けている。
時程	学習内容		評価の観点 関 思 技 知	評価方法等
第1時	【ねらい】中国古代の王朝である殷と周の統治制度に対する関心を高めさせる。	【問い】殷と周の統治体制はそれぞれどのような特徴を持つのだろう。 東アジアの自然環境、殷の神権政治、漢字の起源、周の封建制度などについて、ワークシートにまとめる。	◎	年表と資料集から情報を読み取り、中華文明に対する関心を高めている。（ワークシート）
第2時	【ねらい】始皇帝が統一した秦の統治体制の特徴について考察させる。	【問い】始皇帝はどのようにして中国を統一したのだろう。 始皇帝が統一した秦の統治体制の特徴について正と負の両面から考察し、ノートにまとめる。	◎	秦の統治体制の特徴について正と負の視点から自らの考えをまとめ、適切に表現している。（ノート）
第8時	【ねらい】唐の成立から滅亡に至る経緯を調べ、領域と制度の変遷について理解させる。	【問い】なぜ、唐は募兵集団の司令官である節度使に滅ぼされたのだろう。 唐と周辺諸国との安定した関係から、滅亡に至るまでの経過をワークシートにまとめる。	◎	年表と地図から有用な情報を読み取り、唐が滅亡した理由をまとめ、理解している。（ワークシート）

**D 「実践」** — ノートとワークシートの活用 — ※第2時における取組

**ノート**

○問い「もし、あなたが始皇帝だったら、人々を統治するために、どのようなことをしますか？」

**ワークシート**

《内政》

①【1           】体制を確立・法家思想を採用 ⇒ 法治主義

②文字、(統一貨幣としての)【2           】、  
度量衡(長さや容積と重さ)の統一 ⇒ 升[ます]と分銅[ふんどう]  
を全国に配布

③郡県制を全国で実施：全国36郡(のち48郡) ⇒ 中央から官吏派遣

④【3           】による思想統制：丞相の【4           】のすすめ  
＝農業・医学・占い以外の書を焼かせ、460名余りの儒者を生き埋めにした。

《対外政策》

①(北方の)【5           】を討つ 【6           】の修築

**ノート**

○問い「なぜ、始皇帝は法家の思想を採用したのだと思いますか。あなたの考えを書きなさい。」

〈指導上の留意点等〉

○生徒の思考や探究心を刺激し、単元の学習内容について能動的に関わる姿勢を持たせるために、授業の冒頭に、学習課題に関わる発問を行う。

○自分の考えをまとめるに当たり、基本的な事項の整理を行う。ワークシートとして「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材を活用できる。  
URL <http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/>

【言語活動の充実】

○ワークシートで学習した内容に関連した課題について、生徒に思考させ自分の考えを表現させる。

○授業のねらいや生徒の学習状況に応じてペアワークやグループワーク、意見交換など多様な活動方法から適切なものを選択する。

**C 「評価」** —小テストによる生徒の到達度の把握や指導の成果の評価—

**小テスト** (単元の途中において小テスト実施し、生徒の学習状況を把握)

問1 始皇帝が行った焚書・坑儒による思想統制について、焚書・坑儒(政策)と始皇帝(人物)に対するあなたの評価を、正と負の両面から書きなさい。また、そのように評価した理由も書きなさい。  
【思考・判断・表現】

		焚書・坑儒(政策評価)	始皇帝(人物評価)
正	評価		
	理由		
負	評価		
	理由		

観点別評価の総括についてはH25手引参照。

問2 周、秦、漢の国内の統治体制について、それぞれ特徴を20字程度でまとめなさい。【思考・判断・表現】

王朝	周	秦	漢
特徴			

**〈評価の留意点〉**

- 小テストによる評価のみに偏ることのないよう十分に留意する。
- ペーパーテスト形式の小テストにおいても「知識・理解」の観点に偏ることなく他の観点の評価もできるよう作問の工夫改善を行う。

**〈観点別評価の総括〉**

- 観点ごとに評価を総括し評定につなげる。

※総括の例

	関心・意欲・態度			思考・判断・表現				
時程	第1時	第6時	小テスト	観点総括	第2時	第7時	考查	観点総括
生徒X	B	A	C	B	B	B	C	B
生徒Y	A	B	A	A	A	B	B	B

**A 「改善」** —小テストや授業アンケートの活用による指導の改善—

**小テストの活用** (「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て)

観点	生徒の状況	教師の指導(指導の手立て)
思考・判断・表現	○政策評価や人物評価の記述が十分でなく、理由も記載されていない。	➡ ・政策の具体的な内容を確認しながら、どのような影響があるのかを挙げさせ整理させる。
	○周、秦、漢それぞれの王朝の統治体制の特徴的な内容が記載されておらず、違いが判然としない。	➡ ・各王朝の統治体制に関するキーワードを表にまとめさせ、整理させる。

**授業アンケートの活用** (生徒による授業評価を活用した授業改善)

【生徒用授業アンケート(例)】(年組 番氏名)		〈改善例等〉
No.	項目	
1	単元(または本時)の学習課題を把握することができましたか。 ア 把握できた。 イ だいたい把握できた。 ウ あまり把握できなかった。 エ 把握できなかった。	【課題があった場合】 ○授業目標を板書するほか、学習課題を「問い」のかたちで示し、生徒の関心・意欲を高めさせるとともに、学習への見通しを持たせる。
2	意欲的に授業を受けていましたか。 ア 受けていた。 イ だいたい受けていた。 ウ あまり受けていなかった。 エ 受けていなかった。	【課題があった場合】 ○ペアワークやグループワークのほかICTの活用などによる作業的、体験的な学習を取り入れることにより、自主的な学態度を育成する。
3	授業内容について、理解したことは何ですか。( )	
4	授業内容について、理解できなかったことは何ですか。( )	
5	あなたは、この単元の授業においてどのような取組をしましたか。(複数回答可) ア メモをとった。 イ 予習した。 ウ 復習した。 エ 友人と学習内容を確認し合った。 オ 授業での疑問点を、先生に聞きに行った。 カ 問題集、参考書を活用した。 キ その他( )	【授業アンケート】 ○生徒による授業アンケートを行うとともに授業者自身が自己評価を行い、それぞれの結果を照らし合わせ、授業の改善点を明らかにする。

(2) 日本史Bの指導例

**P 「計画」** —単元の指導と評価の計画— 「単元を中心となる問い」を設定した単元の指導計画の作成についてはH26手引参照。

単元名	古代国家の推移と社会の変化（9時間）			
単元の目標	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭などの諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">単元を中心となる問い：古代国家の支配体制はどのように変化したのだろうか。</div>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	古代国家と社会や文化の特色について意欲的に追究しようとしている。	古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽から課題を見だし、東アジア世界との関係の変化と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	古代国家と社会や文化の特色に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりにしている。	古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽についての基本的な事柄を、東アジア世界との関係の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
時程	学習内容		評価の観点 関 思 技 知	評価方法等
第1時	【ねらい】平安時代初期の政治の特色を地図や年表、諸資料を活用して考察させる。	【問い】桓武天皇と嵯峨天皇の時代に律令体制はどのように変容したのだろうか。 教科書の地図やワークシートに示された年表などの諸資料から、平安時代初期の政治の特色について考察し、グループ内で意見を述べ合う。	◎	地図などから情報を読み取り、平安時代初期の政治の特色について考察し、適切に表現している。（ワークシート、発言内容）
第2時	【ねらい】藤原氏北家が他氏を排斥し、権力を掌握する過程を理解させる。	【問い】藤原氏北家はどのようにして他氏を排斥し、権力を掌握していったのだろうか。 藤原氏北家が他氏を排斥し、権力を掌握する過程を教科書等を用いてノートにまとめ、理解する。	◎	教科書等を用いて、藤原氏北家が権力を掌握する過程をまとめ、理解している。（ノート）
第9時	【ねらい】単元の学習のまとめを通して、古代国家の支配体制や地方政治の変化の要因を考察させる。	【問い】古代国家の支配体制や地方政治はなぜ変化したのだろうか。 グループで古代国家の支配体制や地方政治の変化の内容をまとめ、変化の要因を単元の学習内容に基づき考察し、グループごとに発表する。	◎	古代国家の支配体制や地方政治の変化の内容について既習事項を踏まえて考察し、適切に表現している。（ワークシート）

**D 「実践」** —ワークシートの活用及びグループ学習の展開— ※第1時における取組

<p><b>ワークシート</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 10%;">天皇</th> <th style="width: 40%;">行財政改革</th> <th style="width: 50%;">東北関係</th> </tr> <tr> <td>桓武</td> <td>784 長岡京へ遷都 785 藤原種継暗殺 皇太弟早良親王を廃す 792 健児を採用 794 平安京へ遷都 795 公出挙の利率を低減、雑徭の日数を半減 797頃 勘解由使を設置 801 畿内の班田を6年1班から12年1班とする 805 徳政論争（徳政相論）</td> <td>789 征東大使が蝦夷の族長阿弭流為に大敗  797 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命  802 胆沢城を築造 803 志波城を築造</td> </tr> <tr> <td>嵯峨</td> <td>810 蔵人所を設置 藤原冬嗣を蔵人頭に任命 平城太上天皇の変 810～823 檢非違使を設置 820 弘仁格式が完成 823 大宰府管内に公営田を設置</td> <td>811 文室綿麻呂が蝦夷征討</td> </tr> </table>	天皇	行財政改革	東北関係	桓武	784 長岡京へ遷都 785 藤原種継暗殺 皇太弟早良親王を廃す 792 健児を採用 794 平安京へ遷都 795 公出挙の利率を低減、雑徭の日数を半減 797頃 勘解由使を設置 801 畿内の班田を6年1班から12年1班とする 805 徳政論争（徳政相論）	789 征東大使が蝦夷の族長阿弭流為に大敗  797 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命  802 胆沢城を築造 803 志波城を築造	嵯峨	810 蔵人所を設置 藤原冬嗣を蔵人頭に任命 平城太上天皇の変 810～823 檢非違使を設置 820 弘仁格式が完成 823 大宰府管内に公営田を設置	811 文室綿麻呂が蝦夷征討	<p>〈指導上の留意点等〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○年表を参考にして時代状況を把握する。ワークシートとして「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材を活用できる。 URL <a href="http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/">http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/</a></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○ワークシート（教材）と教科書や資料集等を組み合わせて活用することにより、資料活用の技能や思考力等の育成を図る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言語活動の充実】 ○授業のねらいや生徒の学習状況に応じてノートへの記述やペアワークなど多様な活動方法から適切なものを選択する、意見を述べるときには根拠を示させるなどの工夫を図る。</p> </div>
天皇	行財政改革	東北関係								
桓武	784 長岡京へ遷都 785 藤原種継暗殺 皇太弟早良親王を廃す 792 健児を採用 794 平安京へ遷都 795 公出挙の利率を低減、雑徭の日数を半減 797頃 勘解由使を設置 801 畿内の班田を6年1班から12年1班とする 805 徳政論争（徳政相論）	789 征東大使が蝦夷の族長阿弭流為に大敗  797 坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命  802 胆沢城を築造 803 志波城を築造								
嵯峨	810 蔵人所を設置 藤原冬嗣を蔵人頭に任命 平城太上天皇の変 810～823 檢非違使を設置 820 弘仁格式が完成 823 大宰府管内に公営田を設置	811 文室綿麻呂が蝦夷征討								

○ 年表の下線部について、教科書や資料集の平城京の地図と平安京の地図を比較し、相違点に着目して、桓武天皇が平安京に遷都した理由をまとめよう。

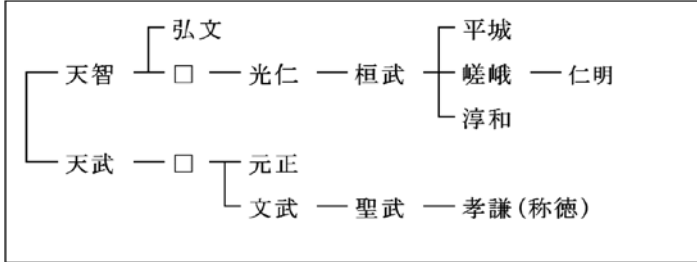
○ 年表を参考にして、桓武天皇と嵯峨天皇の時代の政治の特色をまとめよう。

**C 「評価」** —小テストによる生徒の到達度の把握や指導の成果の評価—

**小テスト** (単元の途中において小テストを実施し、生徒の学習状況を把握)

問1 桓武天皇は784年に平城京から長岡京に遷都しました。その際には、平城京の寺院が長岡京へ移転することを禁止しました。また、桓武天皇の父の光仁天皇は、次の皇室系図に示したとおり、天智天皇の孫に当たる人物でした。これらのことを参考として、桓武天皇が遷都を行った理由として考えられることを、「桓武天皇の皇統」、「仏教との関わり」の2点から説明しよう。  
【思考・判断・表現】

[皇室系図]



※「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材から作成

〈評価の留意点等〉

○「思考・判断・表現」の観点の評価において、習得した知識を活用しながら資料を読み取らせ、思考・判断させた結果を表現させるなど、作問の工夫改善を図る。

【ペーパーテストによる評価】  
○ペーパーテストについては、「知識・理解」の観点に偏ることなく、他の観点の評価もできるように作問の工夫改善を行う。

**A 「改善」** —小テストや授業アンケート等を活用した生徒への手立てや学習指導の改善—

**小テストの活用** (「努力を要する」状況 (C) と評価される生徒の状況と指導の手立て)

観点	生徒の状況	教師の指導 (指導の手立て)
思考・判断・表現	○桓武天皇が遷都した理由を記述することができていない。	➡ ・ノートやワークシートからこれまでの学習内容を整理させ、書き出させる。
	○桓武天皇が遷都した理由を授業で扱った内容の1つの観点からしか考察していない。	➡ ・複数の観点でのポイントに着目させ、桓武天皇の意図との関連を考察させる。

**授業評価シート (自己評価用) の活用** (授業者自らの自己評価を活用した授業改善)

授業評価シート (自己評価用) (例)

No.	項目	評価	メモ
1	生徒の興味・関心や課題意識と照らし合わせて、取り上げるに値する価値のある学習課題を設定している。	4 3 2 1	
2	単元の学習課題を明確にして生徒に学習の見通しを持たせたり学習への関心や意欲を高めたりしている。	4 3 2 1	
3	生徒の学習意欲が持続するよう、適切な単元の計画を立てている。	4 3 2 1	
4	単元の学習課題が達成できるよう、1単位時間ごとにねらいを明確にしている。	4 3 2 1	
5	単元の学習課題の考察が順次深まるような指導方法や指導形態を工夫している。	4 3 2 1	
6	単元の評価規準、評価場面、評価方法を明確にしている。	4 3 2 1	

〈授業評価の留意点〉

【授業アンケート】  
○授業評価シートは、授業者自らが自己評価を行いながら授業を改善していくために活用する。

○評価結果から授業の改善に何が必要か方向性を見いだす。

○評価結果を他の授業評価 (生徒による授業アンケートや参観者からの授業評価等) と照らし合わせるにより、自己評価の客観性を高める。



(3) 地理Bの指導例

『計画』－単元の指導と評価－

「単元を中心となる問い」を設定した単元の指導計画の作成についてはH26手引参照。

単元名	世界の民族・領土問題（5時間）			
単元の目標	世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。 単元を中心となる問い：民族や領土をめぐる問題の原因にはどのようなことがあるのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の 技能	知識・理解
評価規準	世界の生活文化、民族・宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	世界の生活文化、民族・宗教について、分布や民族と国家の関係などを系統的に考察し、民族、領土問題を大観し、その過程や結果を適切に表現している。	世界の生活文化、民族・宗教に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	世界の生活文化、民族・宗教について、分布や民族と国家の関係などとともに民族、領土問題や、系統的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けている。
時程	学習内容		評価の観点 関 思 技 知	評価方法等
第1時	【ねらい】世界各地で見られる主な紛争地域をまとめる。	【問い】世界各地で見られる紛争はどのような地域に多いのだろうか。 世界の主な紛争地域について白地図を活用してまとめ、紛争地域の特徴について考察する。	◎ ◎	調べたことを白地図に適切にまとめるとともに、世界の紛争地域の特徴に考察し、適切に表現している。（ワークシート）
第2時	【ねらい】紛争の原因や現状、推移に対する課題意識を高めさせる。	【問い】第二次大戦後に見られる紛争の原因は何だろうか。 冷戦からもたらされた戦争や冷戦後の世界の紛争についてノートにまとめ、歴史的過程を踏まえ、原因や現状、推移に対する課題意識を高める。	◎	国家間、民族間や宗教間で発生している紛争などの原因などに対して歴史的過程を踏まえて課題意識を高めている。（ワークシート）
第5時	【ねらい】グループで協議し、民族・領土問題の解決のためにはどうすればよいかを考察させる。	【問い】多文化が共生できる社会をつくるためには、どうしたらよいのだろうか。 既習事項を踏まえ、多文化が共生できる社会をつくる方策についてまとめ、自らの考えを発表する。	◎	グループの交流・協議を踏まえ、ワークシートに自分の考えを適切に表現し、発表している。（ワークシート、発表）

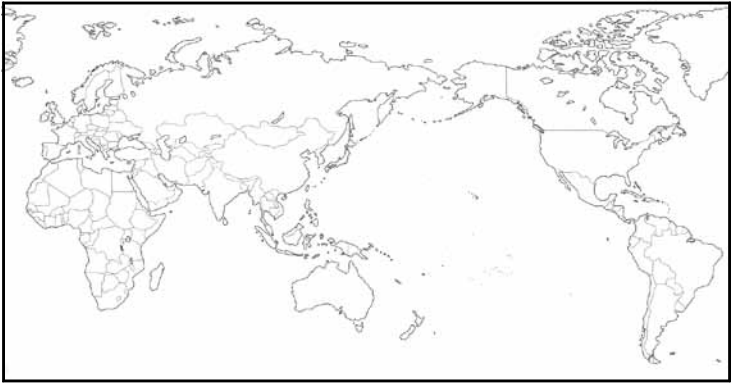
『実践』－教材（ワークシート）の活用－ ※第1時における取組

**ワークシート**

1 世界の民族・領土問題

(1) 世界の主な紛争地域を下の白地図に工夫して記載しよう。  
【資料活用 の 技能】

(ア) ケベック分離運動 (イ) 北アイルランド紛争  
 (カ) ベルギーの南北言語紛争 (キ) バスク独立運動  
 (ク) キプロス紛争 (ケ) ユーゴスラビア解体による民族対立  
 (コ) カシミール紛争 (カ) ソマリア内戦 (ク) ルワンダの民族対立  
 (コ) チェチェン共和国の独立運動 (サ) チベット族の反政府運動  
 (ソ) パレスチナ問題



(2) 紛争はどのような地域で多く発生しているのだろうか、教科書などから背景を調べ考え、まとめてみよう。【思考・判断・表現】

〈指導上の留意点等〉

○地図を活用した作業的な学習により紛争が発生した地域の位置を把握させる。ワークシートとして、「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材を活用することができる。  
URL <http://www.gakuryoku.hokkaido-c.ed.jp/>

【言語活動の充実】

○グループ活動を効果的に取り入れ、考察した内容について、グループごとに発表させるなどの学習を取り入れる。

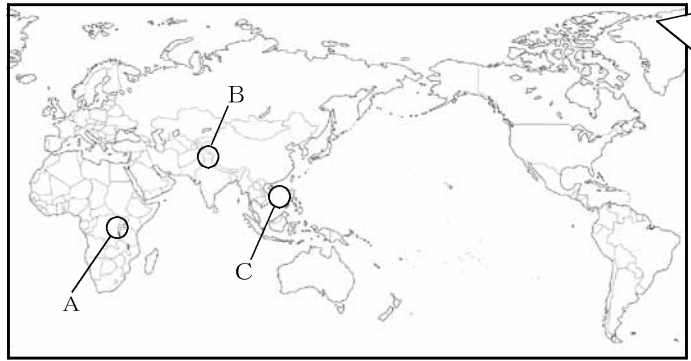
○思考力や判断力を、記述など表現に係る活動により可視化し、評価規準と照らし合わせることにより把握する。（言語活動を中心とした表現と一体的に評価する。）

**C 「評価」**

ーワークシートによる生徒の到達度の把握や指導の成果の評価ー

**ワークシート** (ワークシートを活用した生徒の学習状況の把握)

問 略地図に示されたA～Cの地域を一つ選び、あなたが選んだ地域で起こっている紛争の具体的な原因と、あなたが考える解決策を書きなさい。【思考・判断・表現】



- A : ルワンダの民族対立
- B : カシミールをめぐるインドとパキスタンの紛争
- C : 南沙諸島の領有をめぐる問題

- あなたが選んだ地域 (記号)
- あなたが選んだ地域で起こっている紛争の具体的な原因
- あなたが考える解決策

**〈評価等における留意点等〉**

- 学習した内容を踏まえ、地域を任意に選択させ、主体的に思考させるよう工夫した。
- 白地図を活用することにより、地理的技能の習熟を図るよう工夫した。
- 「あなたが考える解決策」は単元のまとめの時間に活用することを想定している。

**【ワークシートの活用】**

- ワークシートへの記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく生徒の資質や能力を多面的に把握できるよう工夫し活用する。
- ワークシートの記述内容から、目標や評価規準に照らした達成状況やつまづきを、随時適切に評価することが可能である。
- ワークシートを累積することによりポートフォリオとしての機能を期待することができる。

**A 「改善」**

ーワークシートや授業アンケートを活用した生徒への手立てや指導の改善ー

**ワークシートの活用** (「努力を要する」状況 (C) と評価される生徒の状況と指導の手立て)

	生徒の状況	指導の手立て
思考・判断・表現	○世界各地で起こっている戦争や紛争の原因について、学習した内容を踏まえた説明ができていない。	○次時に、教師が評価した結果を生徒に示し、ワークシートの作業内容を改善させたり、再度、学習内容を解説したりする。
	○世界各地で起こっている戦争や紛争が、どのような地域で多く見られるのか、説明することができない。	○これまでの学習の内容について、ワークシート等からポイントについて整理させ、論点を明確にして、生徒同士で意見交換させ、振り返らせる。

**授業アンケートの活用** (生徒による授業評価を活用した授業改善)

【生徒用授業アンケート (例)】 ( 年 組 番 氏名 )

No.	項目
1	グループ学習や発表を取り入れた授業によって、学習のねらいを達成することができましたか。 ア 達成できた    イ だいたい達成できた ウ あまり達成できなかった    エ 達成できなかった
2	授業中に考えたりまとめたりしたことをプリントに書いたり、それを発表したりするような授業をどう思いますか。 ア よいと思う    イ だいたいよいと思う ウ あまりよく思わない    エ よく思わない
3	グループによる学習、発表や白地図を活用した学習に一生懸命に取り組めましたか。 ア 取り組めた    イ まあまあ取り組めた ウ あまり取り組めなかった    エ 全く取り組めなかった
4	今回の授業において、自身の学習の達成状況を自己採点してください。 ア 80点以上    イ 60点以上 ウ 40点以上    エ 40点未満

**〈改善例等〉**

**【課題があった場合】**  
○本時の冒頭で本時のねらいを板書したり学習内容を「問い」のかたちで提示したりすることにより、生徒に学習の見通しを持たせる。

**【課題があった場合】**  
○授業者自らの自己評価と生徒による授業アンケートを照らし合わせ自己評価の客観性を高め、授業の改善につなげる。

# Topic

## 地理歴史科におけるICT（情報通信技術）を活用した学習指導

確かな学力の育成には、基礎的・基本的な知識・技能の習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を育むことが必要であり、ICTを活用し、一斉指導に加えて個別学習や協働学習を推進していくことは、それらの力を育むことに資するものである。

また、高等学校学習指導要領では、地理歴史科の各科目において、地図や年表を読みかつ作成すること、各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物その他の資料を収集・選択し、それらを読み取り解釈すること、観察、見学及び調査・研究したことを発表したり報告書にまとめたりすることなど様々な学習活動を取り入れることに配慮することとされている。

地理歴史科においては、これらのことを踏まえ、学習指導の工夫・改善に取り組む必要がある。

### 「世界史A」の取組例

単元	アジア諸国の変貌と近代の日本
本時のねらい	日清戦争後の東アジアをめぐる国際関係とその変化について理解する。
デジタル教材	○国立公文書館アジア歴史資料センター <a href="http://www.jacar.go.jp/">http://www.jacar.go.jp/</a> ○NHK高校講座ライブラリー世界史 ・革命の世紀と中国～理想と現実の狭間で～ <a href="http://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/sekaishi/">http://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/sekaishi/</a>
使用機器	パソコン、プロジェクター、スクリーン
本時の展開	○導入 ・学習課題の提示 なぜ、日本は「三国干渉」を受け入れたのか。 ○展開 ・朝鮮の開国と日清戦争の勃発 ・下関条約の内容 ・三国干渉への対応 ○まとめ ・動画の視聴

#### ○プレゼンテーションソフトウェアの活用

##### ・日清戦争関係版画と白地図の活用【導入】



・授業の導入で当時の戦闘の描かれ方や軍服、履物などの具体的な「もの」を見せることなどにより生徒の関心を高める。

出典：アジア歴史資料センターHP



・白地図を黒板に投影し、19世紀後半の列強による南アジアや東南アジアへの進出の範囲を描かせ、地理的認識を高める。

※自作教材

##### ・公文書（下関条約）の活用【展開】



・公文書から、日本の主権が定められた領域を確認することができる。

出典：アジア歴史資料センターHP JACAR Ref. A03020213100 (第3画像目、第14画像目)

#### ○デジタル動画の視聴【まとめ】

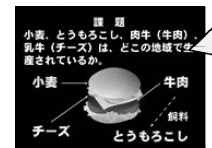
・本時の学習のまとめとして、3分程度の動画を視聴し、19世紀におけるアジアの変化を理解することができる。

### 「地理B」の取組例

単元	現代世界の諸地域 アングロアメリカ
本時のねらい	北アメリカの自然環境の多様性とそれによって形成される農業地帯の特色について考察させる。
デジタル教材	IPA「教育用画像素材集サイト」 <a href="https://www2.edu.ipa.go.jp/">https://www2.edu.ipa.go.jp/</a>
使用機器	パソコン、プロジェクター、スクリーン
本時の展開	○導入 ・学習課題の提示 小麦、とうもろこし、肉牛（牛肉）、乳牛（チーズ）は、どこの地域で生産するとよいか。 ○展開 ・個人学習 北アメリカの白地図上で作業 ・グループ学習 1グループ3～4人 ・発表 ○まとめ ・問題演習（知識の定着）

#### ○プレゼンテーションソフトウェアの活用

##### ・学習課題の提示【導入】



・課題を画像で提示することで、生徒の課題に対する興味・関心を高めることができる。  
・教員による説明時間を短縮し、生徒の作業時間を確保することができる

※自作教材

##### ・思考を促すための資料の提示【展開】



出典：IPA（情報処理推進機構）「教育用画像素材集サイト」

##### ・発表時に活用する資料の提示【まとめ】



・地図は、プロジェクターから直接黒板に投影する。  
・黒板に投影された地図を見やすくするために、地図の背景を黒色にし、海岸線と国境線を黄色に設定した。

※自作教材

### ICTの活用に関する参考資料

北海道教育庁学校教育局高校教育課「北海道高等学校 ICT活用実践事例集」  
(URL:<http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/ict/>)